

2021年度 第3回CSR委員会 議事録

日 時 2021年9月28日(火) 13:30～17:00
 会 場 Web会議
 出席者 21名(欠席:)

(敬称略)

ブロック	委員名	ブロック	委員名	ブロック	委員名
東京	廣瀬 城児	南関東	丹沢 悟	東中国	○ 山田 眞理
北海道	池田 壮	東京	○ 三浦 起世光	西中国	青木 道男
北東北	小笠原 裕司	東海	伊藤 準	四国	平岡 佳展
南東北	沓澤 六雄	北陸	宮下 正	九州北	三浦 文義
上信越	桐島 航平	近畿	松田 時典	九州南	植村 敬子
東関東	岩崎 栄	阪神	西川 秀俊		

<担当副会長>横山 健一郎

<事務局>専務理事:野元 敏昭、特命部長:金澤 亨、特命部長:大谷 隆(記)

:委員長、○:副委員長

<委員会での決定事項>

- ・ぼうさい探検隊マップ提出の最終依頼(必達)。
- ・BCPセミナー未実施代協は、スケジュール調整を行い direct に予定をアップする。
- ・新たな取組みとして「マイタイムライン」「定期的な防災訓練の実施」を推進していく。

議 事

1. 挨拶

1. 廣瀬委員長挨拶

- ・7/27に開催したハザードマップ活用の勉強会に参加、協力いただき感謝申し上げます。その後、動画は日本代協アカデミーのコンテンツにも取り上げられるので、引き続きそ野を広げる活動をお願いしたい。
- ・防災・減災の情報として、建築基準法告示基準改定が2022年1月1日から施行され、新築物件の瓦屋根の緊結方法が強化され、既存の建物については改修等の補助金制度もあるので活用頂きたい。また、このような改定があると、悪徳業者が蔓延してくる可能性が高くなるので契約者への情報提供もお願いしたい。
- ・前回のPTでも情報提供したが「みんなの防災スイッチオン」が放映された。10月2日17時から総集編が放送されるので、未視聴の方は是非視聴いただきたい。
- ・東京都都民安全推進本部から「子ども110番の保険代理店」について、紹介したいとの依頼がありHPにステッカーを掲載することとなった。各地区でもこのような情報があれば連携いただきたい。
- ・地震保険普及、無保険車追放のキャンペーンについて、基本的には街頭での活動は中止といたしますので別の方法を検討していきたい。
- ・ぼうさい探検隊については、9/22時点で135団体の申込みをいただいているがマップの提出が57団体と遅れているので、11/4の締め切りまで丁寧なフォローをお願いしたい。
- ・BCPセミナー未開催の地域については後ほど取組み状況を発表頂きたい。
- ・本日も忙しい時間に集まっただいただいているので、活発な論議をお願いしたい。

2. 司会進行・議事録作成者の指名

- ・司会進行に三浦副委員長、議事録作成者に事務局が指名された。

・報告事項・情報共有

1. 第4回 理事会報告

事務局より、配布した第4回理事会議事録の内容に沿って説明が行われ、以下の補足をした。

- ・審議事項は、2021年度「功労者表彰」の選定、コンベンション開催修正企画、2021年度コンサルティングコース受講者募集の代協別目標数、リスクマネジメント講座の開講案の4項目につき審議され承認された。
- ・事業計画進捗状況について、地域担当理事・各委員会委員長より報告があった。

理事会翌日、全国会長懇談会が開催され会員規模による6つのグループに分かれ事業計画推進について討議を行った

2. 2021年度第1回活力研報告

事務局より、事前に配布した活力研議事録の内容に沿って説明が行われ、以下の補足をした。

- ・保険募集現場で代理店が、納得感がないと感じる諸問題への対応策を「代理店から寄せられる保険募集現場の問題点の確認」「コミュニケーションギャップが生じる根本的背景は何か」「課題の自立的解決に向けて、業界と代協がどう連携して取り組むか」の3つのテーマで論議した。
- ・事務局より、活力研に参加した保険会社社長に、ここだけでの論議に終わらずに社内論議して改善した課題あるいは、違うと判断して対応しなかった課題については情報提供を随時していただき、問題点の整理もできる限り開示して欲しいと要望した。

3. 前回委員会振り返り

廣瀬委員長より、配布した第2回CSR委員会議事録およびPT会議メモの内容に沿って振り返りが行われた。

・審議事項

1. 各ブロック独自活動状況

事前に提出された活動チェックシートに基づき各ブロックより独自活動の報告があった。

(北海道)

- ・コロナの影響で活動ができていないが、ぼうさい探検隊に力を入れて6団体が申し込みをしている。
- ・室蘭支部では、河川清掃を8/27行った。釧路ではタオルボランティアの寄贈を行った。
- ・無保険車追放、交通安全推進の街頭活動を10月実施で検討している。

(北東北)

- ・地震保険普及、無保険車追放運動は、会員を通じてノベルティ時配布を行う。7/21 岩手、7/19 秋田、7/13 青森で損保会との懇談会を実施しており、地震保険普及、無保険車追放、新入会員紹介の依頼をそれぞれ行った。
- ・青森で「子ども・女性110番家スキルアップ研修」、岩手で献血運動、白神地区植樹に参加予定。

(南東北)

- ・宮城では独自活動はできていない。やまがたは9/21~9/30交通安全週間の活動を行っている。
- ・福島では、10月の猪苗代湖漂着水草回収活動に参加予定。
- ・街頭キャンペーンは、会員を通じてノベルティを配布する。
- ・子ども110番の推進にあたり、名刺や封筒に貼れるシールがあればいいと思う。要検討する。

(上信越)

- ・各県思うような活動ができておらず、一部献血や交通安全運動に参加した程度である。
- ・群馬でBCPセミナーを12/2予定しており3県とも完了予定。
- ・長野は9～10月を重点期間として子ども110番を推進している(新潟、群馬は通年)。
- ・長野では無保険車追放キャンペーンとして自動車教習所へノベルティ設置、新潟は大学や専門学校に設置する。

(東関東)

- ・茨城の清掃登山は中止、鹿島神宮内清掃を12月上旬に実施予定。ハザードマップ勉強会を検討中。
- ・千葉では来年3月に献血活動を予定(安房支部)、BCPセミナーを12月上旬に予定している。

(南関東)

- ・山梨では、フードバンク山梨(7月、12月)に協賛。「セーフティドライブ・チャレンジ123」に協賛(賛助会員)。街頭キャンペーンについては住宅展示場(地震保険)、陸運事務所(無保険車)にノベルティを設置してもらっている。
- ・神奈川での街頭キャンペーンは会員を通じてノベルティを配布する。

(東京)

- ・コロナで活動が自粛されているが献血や清掃活動について人数を絞って絶やさないように実施する予定。
- ・この1年半でWEBセミナーのノウハウがついてきたので有効的に開催していく。
- ・10/26「防災・減災ハザードマップセミナー」を開催予定なのでチラシが出来たら皆さんに連携するので参加いただきたい。

(東海)

- ・静岡の街頭キャンペーンは、各支部および大学に設置(無保険車放)、富士山清掃は中止。
- ・愛知の清掃事業は人数を制限して実施予定。
- ・三重県は海岸清掃を参加人数縮小し実施、9/4に宣伝広告を中日新聞に掲載した。

(北陸)

- ・3県とも11月に街頭献血を予定している。
- ・BCP策定の定義は？保険会社指示のものか、日本代協推奨のものか 定義はなく、実情に合っているかどうかで判断する。
- ・福井では高校生出前講座を予定している。

(近畿)

- ・京都ではMS社、AD社にて献血キャンペーンを9/22実施。
- ・京都のBCPセミナーを検討中。クリーンキャンペーンは中止。
- ・滋賀では草津市FMにて地震保険普及キャンペーンを告知、FM彦根で無保険車追放を告知。
- ・奈良では畿央大学、社会福祉協議会に無保険車キャンペーンのノベルティ設置。
- ・ブロック全体として公開セミナーを来年開催予定。

(阪神)

- ・和歌山では10/10の10,000人大清掃に急遽参加が決定。
- ・10/22に大阪でABC朝日放送と共催した防災減災セミナーを開催(詳しくは大阪代協HP参照)。

・大阪では事業継続力強化計画作成をワークショップで実施、ブロックでの開催も検討中。

(東中国)

・岡山は8月、2月を献血月間として活動(8月70名参加)。

・10月の三県合同清掃活動の実施を決定(10/15)。

・岡山代協では、新聞広告でぼうさい探検隊の取組みを紹介、1件照会があった。

(西中国)

・広島市の平和記念公園が雨のため中止となったので10/14に開催予定。サイバーセミナーを理事会後開催し、録画配信する予定。

・山口では損保4社(AIG, MS, SJ, TN)とタイアップし献血実施。BCPセミナーは理事会で開始を検討する。以前被害のあった安佐南地区で小学生を集めて、ぼうさい探検隊を実施予定。

(四国)

・コロナによりほとんど活動できていない。

・愛媛では無保険車追放キャンペーンのノベルティを教習所に設置。

(九州北)

・佐賀の献血活動は先月2回実施

・大分での、ぼうさい探検隊取組みが新日本保険新聞に掲載された。

・大分以外の3県でBCPセミナーを11/15合同開催が決定。

(九州南)

・宮崎で無保険車追放キャンペーンの一環として大学キャンパスで無保険バイク調査を検討中。県代協として子ども110番の一括登録を予定している。

・熊本のサイバーセミナーを保険会社に依頼することで検討中。

2. ぼうさい探検隊の取組み

(山田副委員長から)

・9/22時点で目標(三冠王項目)達成しているのは、鹿児島・岩手・神奈川・やまがた・愛媛・岐阜の6代協である。

現状の取組み状況につき意見を求めた(目標達成代協の取組み)。

(主な意見)

・岩手は担当保険会社女性社員に依頼したのが3件、紫波町安全推進協議会で安全マップを作成しており、ぼうさい探検隊にも提出を依頼している。各支部へ1件必達を徹底。

・やまがたは、青パト巡回時にぼうさい探検隊のアプローチをしている。各支部に1件依頼。

・神奈川は、4冠を目指して、会長が率先して推進している。コロナが理由で活動できないことはないと思っている。

・岐阜では、取組み状況把握できておらず。

・鹿児島は、会員の家族単位での取組みを推奨した。

今後の取組みについての意見を求めた

(主な意見)

・北海道では、9支部あるうち3支部しか動いていないので各支部のCSR委員長は何を伝えているのかを次回委員会で確認する。熱く・くどく伝えている。

- ・上信越ブロックは、それぞれ申込みめどは立っているので実施を推進していく。
- ・栃木は昨年度 0、今年度も未だ 0、コロナで活動ができない。
- ・北陸ブロックは石川、福井は目標達成見込みだが富山は委員長が候補団体を当たっている状況。
- ・滋賀では現状 0 だが 4 件の見込みがあるので急がせる。京都は子どもがタブレット使用を面白がって取り組んでいる。
- ・阪神ブロックでは、県跨ぎでぼうさい探検隊に参加しお互いのモチベーションを高めている。岡山の勉強会も非常に参考にしている。
- ・岡山では三冠王項目の貢献度についての支部対抗戦を行って各取り組みを推進している。
- ・山口は苦戦しているが、1 件は下関支部から提出予定。
- ・九州北ブロックは対前年で申し込みが増えており、モチベーションが上がっている。

(廣瀬委員長より)

- ・コロナ禍で活動しにくい中ではあるが、昨年 0 件今年度 0 件はさすがに疑問を感じる。感染には十分注意していただきながら、今だ 0 件の代協は特に最終の取組みをお願いしたい。件数というよりも、取組みを継続的に続けていかないと子どもを守るということを伝えていけないからである。
- ・審査方法の変更はあるのか(タブレットが増えているが) 審査基準変更の連絡はない。次年度の要望として損保協会に伝える。

今年度の参加賞について多数決にて「マスキングテープ」とすることが決定された。

3. 防災・減災の具体的な取組み(ハザードマップ活用討議)

取組み状況の意見を求めた。

(主な意見)

- ・大分では、ステップ1として理事会で勉強会動画を視聴、ステップ2として支部長会で動画を視聴した後、詳細説明を行った。今後、各支部会開催時に動画の視聴を行っていく予定である。
- ・東京では、7月の勉強会に社会貢献委員会全員が参加し、会員に広げるために10月にセミナーを開催することを決定した。講師選定にあたり、国交省関東地方整備局の河川部水災害対策センターに依頼して詳細打合せを行い、ハザードマップ作成の経緯、活用方法、マイタイムラインをその場で実際に作ってみる内容を盛り込み10/26に開催。最終的な目標は、会員が消費者に伝えるレベルまで持っていくこと。チラシ作成後案内するので参加いただきたい。
- ・(野元専務)ハザードマップは簡単な仕組みなので、使って頂くことが重要である。是非ハザードマップとマイタイムラインの作成に繋げていただきたい。
- ・長野では、支部単位で動画を活用した勉強会を開催し会員に広めていく予定である。

(野元専務より補足)

- ・ハザードマップ自体は簡単なので自らがお客さまに案内していただきたい。日本の最大リスクは地震・津波・噴火が挙げられるが、それを除くと圧倒的に水害であると考えている。水害に対する国の方針は、全ての災害を堤防やダムで防ぐ仕組みになっていないので100年に一回起きるかどうかの災害時には逃げるのが前提になっている。ましてや1000年に一回の対応まで考えていたら国の財政が破綻してしまう。国の基本的な考え方は流域治水になっており、流域全体で最優先課題である命を守っていく考え方になっている。したがって、ハザードマップでリスクを把握し、いざとなったらBCPのスイッチを入れて逃げる、残った財産については保険を手配するという仕組みとなっている。
- ・2022年から個人分野においてもハザードマップに基づき料率が反映されるので、火災保険を販売する際にはハザードマップを提示することになると思う。既に不動産業界では住宅の新築物件を販売する際にはハザードマップを提示して水害リスクを説明する義務があるし、近々、改定される監督指針でも生命保険を販売する際には公的保障の内容を説明する必要につき言及されている。

- ・ハザードマップを活用することにより逆選択が起こる可能性が出てくる。リスクが高い人は保険に加入しなければと思うが、リスクが低い人は保険に加入する必要性を感じなくなってしまう恐れがあるので業界としては、建物の被害を防ぐための国の手当てについて要求していかなければならない。
- ・今後、保険料にリンクするようになると保険会社が作成しているハザードマップを提供するよりも、国が作成しているハザードマップを活用した方がお客さまの納得感を得られると思う。

4. 防災・減災の具体的な取組み(BCP策定)

BCP セミナー未開催地域(7 府県)の予定を確認した

- ・秋田 10/5 開催決定。
- ・千葉は 12 月上旬に開催を検討中(栃木との共同開催も検討)。
- ・京都は未定(12 月内には開催したい)。
- ・山口は 11 月の理事会で開催日を決定させる。
- ・愛知、岐阜は今月の委員会でスケジュール調整する。

未定、検討中の代協はスケジュール調整の上 direct にて報告。BCP セミナーは今年度までの施策。

(野元専務より補足)

- ・BCP に画一的なものはないが、いざ災害が起こった時に自分の会社が直ちに立ち上がってお客さま対応ができる体制が取れるようになっているかがポイントであり、会員の規模・特性によって違うと思う。社内で、その考え方が共有できているかである。
- ・BCP において重要なことは、代理店にとって重要な業務は何かということが明確に順番付けできているか、一般的には、お客さま応答、保険金支払いのためのサポート、通常の業務だと言われている。もう一つが、目標復旧期間で、立ち上げるために必要な項目が明確に定まっているか、それを社内で論議しているかである。保険会社や中小企業庁の雛型では重厚長大であり馴染まないのではないかと考え、策定シートをもとに社内で論議して作り上げられるひな型を提供しているので活用頂きたい。

(主な意見・質問)

- ・BCP と事業継続力のセミナー受講時にアンケートをとっているが、その情報を連携してもらえるのか。
企画環境委員で集計しているので、連携することになっている。
- ・事業継続力強化計画セミナーを 9 月末まで録画配信していたが、今後はどうなるのか。
会員限定 YouTube で配信していく予定。

5. サイバーセキュリティ対策の進め方

セミナー開催した福井、広島の情報を確認し、他地域でも継続的な取組みであるので各都道府県で開催していくことを確認した。

6. 継続活動の効果的展開の討議

(廣瀬委員長より)

- ・地震保険普及・無保険車追放キャンペーンについては、各代協に通知されていると思うが、基本街頭活動は中止としているが、各地区の状況を見て感染防止対策を取った上で行って頂いても構わない。
- ・自動車教習所、陸運局、大学、住宅展示場等にノベルティを配布する等の情宣活動を行って頂きたい。

(主な意見)

- ・東北・北海道ではこれから除雪車が動き出すし、人身事故も結構発生しているので建設業等へ提案したらどうか。保険会社でも推進している。
- ・子ども 110 番の保険代理店推進において、大分では新入会の会員に登録の案内をして、昨年度は 4 会員を登録した。

- ・無保険車追放関連で、自転車事故防止の取組みを行ったらどうだろうか。
- ・子ども 110 番のステッカーを周知する意味で、学校にも設置してみたらどうだろうか。

学校への設置はハードルが高いと思うので、一度地元の学校に設置の可否を確認していただきたい。

7. 新たな防災・減災取組みについて

- ・廣瀬委員長より、新たな取組みとして、「マイタイムライン」、「防災訓練の実施」、「キキクル(気象庁アプリ)」の推進提案があった。

(主な意見)

- ・地元の消防団と連携し危険地域の洗い出しをしたらどうか(ハザードマップでは見えないものが見えてくる)
- ・単純にメールで案内するだけでなく、推進方法について検討していく必要があると思う。

他、意見が無く多数決により廣瀬委員長提案の「マイタイムライン」、「定期的な防災訓練の実施」を推進していくことで決定した。推進方法については次回 PT で検討する。

・その他・閉会

1. 情報共有

事務局より下記情報共有があった。

- ・9/16 付で案内しているが建築基準法告示基準改定が 2022 年 1 月から施行され瓦屋根の緊結方法が改定される。これは、損保協会が長年に亘り取り組んでいて、ようやく実現にこぎつけたものであり、自然災害時の風災リスクは大きく軽減されると思われる。また、既存建物には適用されないものの、補助金制度ができる予定になっている(自治体毎に予算組をしている)。一方、悪質業者が暗躍することにも繋がるのでこれまで以上にお客さまへの事前の情報提供を強化していただきたい。

2. 本日の到達点の確認、次回以降日程確認

- ・事務局より、本日の決定事項を再度確認した。

3. 横山副会長所感

- ・長時間の会議、熱心な討議お疲れさまでした。日頃コロナ禍の中で、各地で委員会の取組みに注力いただき感謝申し上げます。また、猛烈な勢力の台風 16 号が接近しているので、影響がある委員の方はお客さまに寄り添って守っていただきたい。
- ・本日の会議においては多岐にわたる事項を共有したことと思うが、会議の前の事前提出資料である活動チェックシートは、しっかりヒアリングした上で記入していただき締め切りを厳守していただきたい。発表についても好事例となるような事例を取り纏めたくて会議に臨んでいただきたい。
- ・あと一か月余りで、ぼうさい探検隊の締め切りとなるが、まだ申し込みの見込みがない 8 代協については事情があると思うが、この 10 年で大災害に見舞われた地域が多いことが気がかりである。
- ・BCPについて、企画環境委員会が 8/31 に事業継続力強化計画セミナーを開催し 291 名の参加、さらにその後の配信動画を 613 名が視聴している。事業継続力強化計画は特に中小企業にとって BCP 策定がなかなか進まない中で、策定を促す導入施策として 2 年前に投入したものである。野元専務理事からの説明にもあったように、当 CSR 委員会では、お客さまを守る我々が自らを守らずして目的を果たせないの BCP をしっかり策定し有事に備えようとのことである。各委員の皆さまが腐心してセミナー開催を促したり、策定ツールを情宣していただいているが、代協会員の間に定着しているとは、まだまだ言える状況ではない。このほど、損保協会は中小企業経営者を対象に企業を取り巻くリスクに対する意識対策実態調査を行い、同協会の HP で公開した。その調査によると 60.4%の中小企業経営者が近年リスクは増えていると回答している。さらに不幸にも被害を受けて、こんなにも大きな被害を受けるとは思っていなかったと回答している経営者が 54%いた。リスクに対する備えが不足しているとの回答も 51.4%、自社では被害を受けることがないと思っていたとの回答が 46.4%これが実態である。保険代理店を営む我々がこのような

回答を引き起こしてしまっており本当に使命を果たしているのかを自問自答していかなければならないと思う。それだけでなく、ここ数年自然災害は甚大化し感染症が全世界に蔓延しており、目に見えないリスクであるサイバー攻撃にさらされている、こうした世の中でも普段の生活や企業活動を続けていくために地域と連携して、情報やノウハウを提供していくことが求められている。CSR 委員会の皆さんが日本代協において取り組んだこの経験は将来大いに役立つものであると感じている。是非、現在強力に推進している事を各地域の方々と一緒に取組んでいただきたい。

・本日、討議した内容はしっかり地域に伝えて代協会員の誰一人取り残さない取組みを続けていけるよう尽力を改めてお願いする。

以上

次回開催日 2021年10月20日(水) 15:00~17:00(PT)

2022年1月21日(金) 13:30~17:00(第4回委員会)

2022年1月22日(土) ぼうさい探検隊表彰式